沢田内科医院 ニュースレター

第36号

緊急情報 小学校6年生と幼稚園年長の子どもたちへ 予防接種を受けましたか！！

予防接種のお知らせ

二種混合(DT)ワクチン2期

小学校6年生の皆さんは、二種混合ワクチンの予防接種が必要です。百日咳・ジフテリア・破傷風混合ワクチン（DPT)、いわゆる三種混合ワクチンは生後3ヶ月から接種します。2期として11歳以上13歳未満の子どもにジフテリアと破傷風混合ワクチン（DT）の接種が必要です。平成6年生まれと平成7年生まれ、つまり、小学校6年生と5年生が相当します。弘前市の小学校6年生は8月末で16%しか接種されていません。**小学校6年生の児童には中学校入学前にDTワクチンを接種して下さい。**

麻しん風しん混合(MR)ワクチン2期

来年小学校に入学するお子さんたちもMRワクチンの予防接種が必要です。来年3月31日まで公費で予防接種ができます。弘前市では8月末までに対象者の15%にしか接種されていません。**小学校入学直前の子どもにはMRワクチンを接種して下さい。**

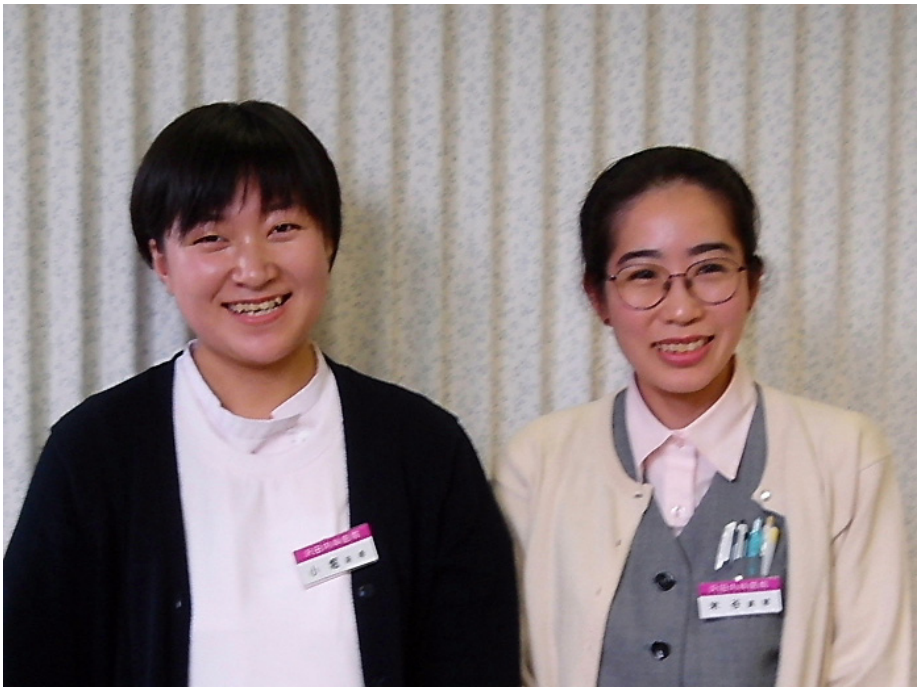
隣の韓国では数年前に麻しんの流行がありました。その韓国が麻しん撲滅宣言をするようです。先進国の中で日本の麻しん対策は遅れています。**1年目の誕生日を迎えたら麻しん（はしか）と風しんの予防接種（MRワクチン1期）**を真っ先に行って下さい。

予防接種のスケジュールは法律が変わり複雑になっています。予防接種についてよく分からない場合は、私の医院でも結構です。小児科の先生でも結構です。ぜひ、ご相談下さい。

イムラン君への募金ありがとうございました

チェチェン共和国のイムラン君は、7月27日に弘前大学附属病院脳外科で手術を終え帰国しました。医院の外来受付で募金のご協力をお願いしましたが68,536円になりました。まったく知らない外国の子どものためですが、こんなにたくさんのご協力が得られました。私自身は、弘前出身でモスクワ大学で学ぶ菊池由希子さんの心意気に協力するつもりでした。沢田内科医院職員と私個人の分を合わせ、294,536円をイムラン基金に振り込みました。菊池由希子さんからはお礼の電話がありました。ご報告いたします。ありがとうございました。

小堀未希さんと米谷真琴さん



開業した時から勤務していた工藤悦子さんが退職した後、9月から受付事務で米谷真琴さんが働いています。女性に年齢を聞くのは、何歳になっても失礼なのだそうですので、不詳ということにします。毎日、外来では若々しい声が響いています。これまでも医療事務の仕事をしてきましたので、すぐ慣れると思います。趣味は何かとか、好み、嫌いなものなど、まだ把握していません。よろしくお願いいたします。長い髪を結った黒縁のめがねをかけた人です。独身です。決まった人はいないようですが、女の人は分かりませんので・・・・。

小堀未希さんは、弘前市医師会准看護学院の学生です。今年の春に高校を卒業した1年生です。准看護学院は2年課程で、卒業後に県知事が行う試験に合格すると准看護師になれます。准看護学院は、午後1時から夕方まで授業があります。小堀さんは、朝から12時まで医院で働き、急いで昼食をとり看護学院へ駆けつけます。注射などの医療行為はできませんが、医院で患者さんと接することが勉強の強い動機付けとなります。仕事の内容そのものが勉強の内容です。皆さまのご協力をお願いいたします。

りんごの盗難事件で考えたこと

りんご畑の近くを歩いていると、赤いりんごの重さでたわわになった枝が歩道にせり出し、まるで散歩の邪魔をしているようです。誰もそのりんごを取って行くわけでもありません。りんご畑には人が入れないようにした柵もありません。でも、りんごはいつもそこにあって収穫されるのを待っています。私は、これを見ていると気持ちがよくなります。ちょっと手を出せば、持ち去ることができるのに、誰もしない。

よく、サクランボが盗難にあったという事件が報道されます。他人事のように思っていましたが、今年はりんごの盗難のニュースが多くなりました。りんごの収穫で疲れてしまった患者さんが、あと3日で終わりだとか、もう1週間かかりそうだ、などとずっと頑張って世話をしたりんごを盗むなんて、どんな神経の持ち主なんでしょう。農家の人たちは、夜も寝ずに見張っているそうです。こんな事件が続くと、もうあんなのどかな光景はなくなるのかなぁと残念に思います。りんごを盗まれないように、柵でりんご畑が囲まれてしまうのですから。

町内のごみ収集を見ても、似たような気持ちになります。町内では、カラス対策などで、何軒かでネットを張った収集場所に特定の日にごみを出します。しかし、収集日でもないのに、分別もしないごみを勝手に置いて行く人がいます。食べ終えたカップラーメンの容器と箸が道路に置かれていたこともありました。誰か片付けてくれると思っているのでしょうか。飲み終えたジュースの空き缶も捨てられています。

これらの行為は、社会が豊かになり、自分たちの生活が豊かになってしまった結果なのかと思っています。個人の生活が貧しい時には、社会全体で豊かになろうとしたと思います。それが、社会が豊かになってしまった結果、自分のことしか考えられなくなったからではないでしょうか。自分が住む社会は豊かになったのに逆比例して、人の心は貧しくなってしまった。その結果が、りんごの盗難や町内のゴミや空き缶の放置として現れていると。

これを元に戻すことはもはやできないことでしょう。それなら、自分というものをもっと広く考えるようにしたらどうでしょうか。自分の家を汚くしておく人はいないでしょう。ちょっと心を広げて、自分の町内も自分と考える、あるいは、自分の一部と考える。弘前市全体も自分の一部と考える。りんご畑も自分と考える。このように自分の周りを自分の一部と考えることで、周りの社会がよくなるような気がします。周りの環境がない限り自分は生きていけないし、他人のためだというより、自分のためだと思えば実行できそうだから。ちょっと甘い考えかな・・・・。

世界史の未履修問題

高校で世界史が必修なのに、未履修のまま卒業していたことが分かりました。在学している高校生は、残り少ない期間で履修せざるを得ないようです。特に、受験生は、こらからが大事な時期だというのに、受験とは関係ない教科に時間を割かなければならないようです。

この問題で、未履修のままでは、まじめに履修した受験生と不公平が生じるので、決められた時間の授業をやるべきだという議論があります。世界史を履修しないで、受験科目を勉強した受験生は、世界史の授業を受けた受験生よりも、受験科目に勉強時間を割けたということでしょう。

不公平といいますが、世界史の授業を受けられなかったのですから、その機会を奪われて損をしたということです。しかし、このことについての議論はほとんどありません。教えてもらうべきことを教えてもらわなかったことは、不幸なことです。でも、すべてが大学受験を軸に議論していますので、勉強したことが無駄な時間を費やしたと考え、世界史を習った方が不利益だという不公平が生じたということになるようです。

履修ということ自体も実体のないことで、こんなに議論するようなことなのかとも思います。指導要領という規則があり、それに沿わなければ卒業できないというのは、法秩序で成り立つ現在の社会では正当な議論です。しかし、出席していればその教科を履修したことになり、内容を習得したかどうかは関係ないようです。つまり、形式的なことを満たしていればいいということで、実質的には違いがありません。

現実には、分数の計算もできないで中学校を卒業していますし、中学生程度の英語も理解できないで高校を卒業しています。数学が分からずに高校を退学したという話も聞いたことがありません。世界史を履修したといっても、内職と称して別の受験科目を勉強するのは、今に始まったことではありません。

このようなことに巻き込まれた高校生を気の毒に思います。受験を控えたこの時期に、まともに世界史の授業を行うのであれば、受けたくない世界史の授業を受ける高校生も気の毒ですが、聴く気もない高校生を相手に、不毛な行為をやらされる教師も気の毒に思います。規則は規則だとか、不公平感を持たせてはいけないなど、建前で無駄な時間を費やすことはせずに、現実的な対応ができないものでしょか。

インフルエンザ ワクチン

11月1日からインフルエンザワクチンの接種を始めました。12月末までを予定しています。昨年は約1,000人に接種しましたが、ワクチンが不足して接種できない人がいました。今年はワクチンは十分にあるということです。予約は必要ありません。13歳未満が2回接種で、13歳以上は1回だけの接種です。

待合室の仕切りを防音壁にしました

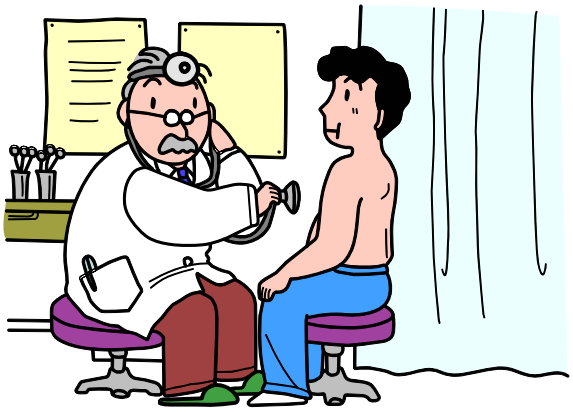
社会の複雑化により、外来患者さんの相談内容が、精神的なこと、いわゆるメンタルヘルスに関することが多くなってきました。外来診察室は防音ではありませんので、診察室での会話の声が、当然のこととして外で待っている人たちの耳に入ってしまいます。そのため、診察室では声に出して相談できず、そのまま帰ってしまった患者さんもいることと思います。

たくさんの患者さんが来て、点滴や検査などを診察と平行して行っていますので、それらに気を配るためには、診察室を完全に防音にするわけにはいきません。これまでのように、処置室の状況は分かるようにしながら、待合室へは話の内容が伝わらないように防音壁で仕切りました。完全な防音ではありませんので、中で診察していることは分かりますが、その話の内容は分からない状態になりました。

患者さんの数がもっと少なくても経営が成り立つ医療制度であれば、完全な個室で診察することも可能です。しかし、現在の日本では大きな病院でさえ薄い壁やカーテンで仕切っていることが普通です。個人情報保護が大事だといわれますが、このあたりにもっとお金がかけられるような制度になることを期待しています。

外来のスペースは、開業する時の設計段階では大きくスペースをとったはずでした。しかし、医療の進歩で物が多くなり、だんだん手狭になってきました。自然に器械類や戸棚などのスペースが大きくなり、人がいるスペースが狭くなってきました。時代が進むにつれて、医療の内容も変わり、必要なスペースも変わってきます。

さっそく患者さんから反応がありました。「あれっ、自動ドアではないんですか？」と。自動ドアにすることはまったく考えていませんでした。玄関とトイレは自動ドアですが、エレベーターも含め、自動的に動くものは、保守点検など維持するのに大変なお金がかかります。



発　　行：　〒036-8261 青森県弘前市茂森新町1-6-4　沢田内科医院　院長　沢田美彦
ホームページ：　http://www.jomon.ne.jp/~ysawada/　　TEL 0172-37-7755　FAX 0172-37-7788